

役場庁舎整備に関する 住民説明会

平成30年9月

小鹿野町

本日説明する内容

- 1 庁舎整備の背景
- 2 庁舎の現状と課題
- 3 庁舎整備の検討
- 4 庁舎整備の基本的な考え方
- 5 町政懇談会における町民のご意見
- 6 比較における前提条件
- 7 比較検討(1)
- 8 比較検討(2)
- 9 比較検討(3)
- 10 比較検討(まとめ)
- 11 財源
- 12 事業スケジュール
- 13 終わりに

◆庁舎整備の背景

東日本大震災

237か所の庁舎が被災

熊本地震

5か所の庁舎が被災



**災害時の対策本部となる
庁舎の耐震対策**

**早急に取り組む必要性が
全国的に求められている**



宇土市HPより

◆庁舎整備の背景

多くの町民が利用する施設を優先して耐震化

学校の耐震化

病院の耐震化



病院耐震化



両神小耐震化

残りは
役場庁舎

◆庁舎の現状と課題

●小鹿野庁舎は

昭和41年に建設され
築52年が経過

耐震診断の結果、

①コンクリート強度が
低く、建物全体の劣化
も著しい

②震度6強以上の地
震が発生した場合、倒
壊または崩壊する危険
性がある



庁 舎	建築年	築年数	延床面積	構造	Is値(※1)
小鹿野庁舎	昭和41年	52年	1,435.57 m ²	鉄筋コンクリート造	0.31
小鹿野庁舎 第2庁舎	平成3年	27年	398.61m ²	鉄骨造	耐震診断 不要
両神庁舎	昭和48年	45年	2,098.14 m ²	鉄筋コンクリート造	0.6
旧三田川中学校	昭和50年	43年	2,479.75 m ²	鉄筋コンクリート造	平成23年度耐 震補強済み

◆庁舎整備の検討

庁舎検討委員会（平成28年10月～平成29年8月）
各種団体代表者、識見を有する者、公募による町民19名

答申

整備の方向性

- 1 町民の利便性を向上させるため、分散している課を可能な限り一箇所にまとめる。
- 2 耐震性のあるものとしながら、ユニバーサルデザインに配慮した建物とする。
※ユニバーサルデザイン:すべての人にとって使いやすいように始めから意図して作られた施設のデザイン
- 3 総合防災拠点としての機能を果たせるものとする。

庁舎整備パターン

現在地に
建替え

現在地の南側（現
駐車場）に建替え

既存施設を利用
（旧三田川中学校）

他敷地に新築（旧
三田川中学校敷地）

◆庁舎整備の検討

庁舎建設委員会

(平成29年11月～)

専門家である小鹿野町事業推進アドバイザーと
副町長をはじめとする役場職員

「役場庁舎整備の基本的考え方」を平成30年4月に策定



平成30年4月～5月に18回開
催した「町政懇談会」にて説明

◆庁舎整備の基本的な考え方

基本理念

町民の「**安心安全**」の拠点として

利用しやすく小鹿野町らしい庁舎

◆庁舎整備の基本的な考え方

基本方針

- 1 安心安全な町民のための庁舎
- 2 町民サービスの向上を目指した庁舎
- 3 ふるさとの個性を活かした小鹿野町の活性化に繋がる庁舎
- 4 まちづくりと環境に調和した庁舎
- 5 ICTとフレキシビリティ対応を考慮した経済的で合理的な庁舎

◆庁舎整備の基本的な考え方

〈基本方針1〉 安心安全な町民のための庁舎

- ・町民の生命と財産を守り、安心安全な暮らしを支える拠点づくり
- ・高い耐震性と災害対策本部機能を持った安心安全な施設計画

〈基本方針2〉 町民サービスの向上を目指した庁舎

- ・町民の利便性を第一に考えた、わかりやすく使いやすい施設計画（わかりやすい案内表示、利用頻度を考慮した窓口配置、高齢者及び障害者対策を考慮した施設計画等）
- ・分散している課を可能な限り集約し、利用しやすく合理的な町民サービスの提供

◆庁舎整備の基本的な考え方

〈基本方針3〉 ふるさとの個性を活かした 小鹿野町の活性化に繋がる庁舎

- ・ふるさとの歴史文化と自然を活かした小鹿野町らしい庁舎計画
(花と歌舞伎と名水のまち及び春まつり等のアピール)
- ・地域経済の活性化に繋がる計画
(小鹿野産木材の活用、小鹿野の観光及び産業をアピール)



町有林も積極的に活用し

- ★地域資源活用による地元経済の活性化
- ★町民に親しまれる庁舎
- ★小鹿野町をアピールする展示空間を備えた庁舎

◆庁舎整備の基本的な考え方

〈基本方針4〉 まちづくりと環境に調和した庁舎

- ・小鹿野町の総合振興計画を尊重した計画
- ・既存の公共施設等との連携を考え、町民の利便性を考えた施設計画
- ・既存コミュニティや街並みを尊重した計画
- ・省資源・省エネルギーを考慮した環境にやさしい施設計画
(太陽光発電などの活用検討、パッシブデザインの検討、照明・冷暖房設備の省エネ化等)

※パッシブデザイン: 太陽熱や風などの自然エネルギーを利用した省エネ設計手法

〈基本方針5〉 ICTとフレキシビリティ対応を考慮した経済的で合理的な庁舎

- ・時代の要請であるICT(情報伝達技術)化に対応した施設計画
- ・時代の変化や町民のニーズの変化等に柔軟に対応できる施設
(間仕切変更や設備変更に対応しやすいフリーアクセスフロアの採用等)
- ・機能性と合理性を持った経済的な施設計画
(ランニングコストの縮減)

◆町政懇談会における町民のご意見

●現在地への建替えに賛同するご意見

庁舎の建て替えは必要。そして、防災拠点として長く使えるものがよい。ただ、派手なものや豪華なものでなく、機能的・合理的・経済的でシンプルなものをお願いしたい。

●旧三田川中リフォームに賛同するご意見

人口が減少してきて財源も減っているので、わざわざ新しく造る必要はあるのか。旧三田川中学校を補修して利用すればよいと思う。

●庁舎整備に慎重なご意見

検討の形はいろいろあると思う。性急に物事を考えなくてもいいのではないか。

町民のご意見を踏まえて検討

◆庁舎整備の比較検討

整備方法を2つのケースに絞り、
今後の**50年の長期的な視点**で比較検討

○旧三田川中学校を**リフォーム**する計画案

○現在地に**建替え**する計画案

まちづくりの視点から

◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

現在、町の抱える最も大きな課題は

人口減少と少子高齢化

現状のままで推移すると

2030年には、町の人口は**8500人に縮減予想**

◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

消滅都市とならない為に

今後100年にわたる**小鹿野町**
のまちづくりの為に

◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

現在策定中の

第2次小鹿野町総合振興計画における基本目標

基本目標1

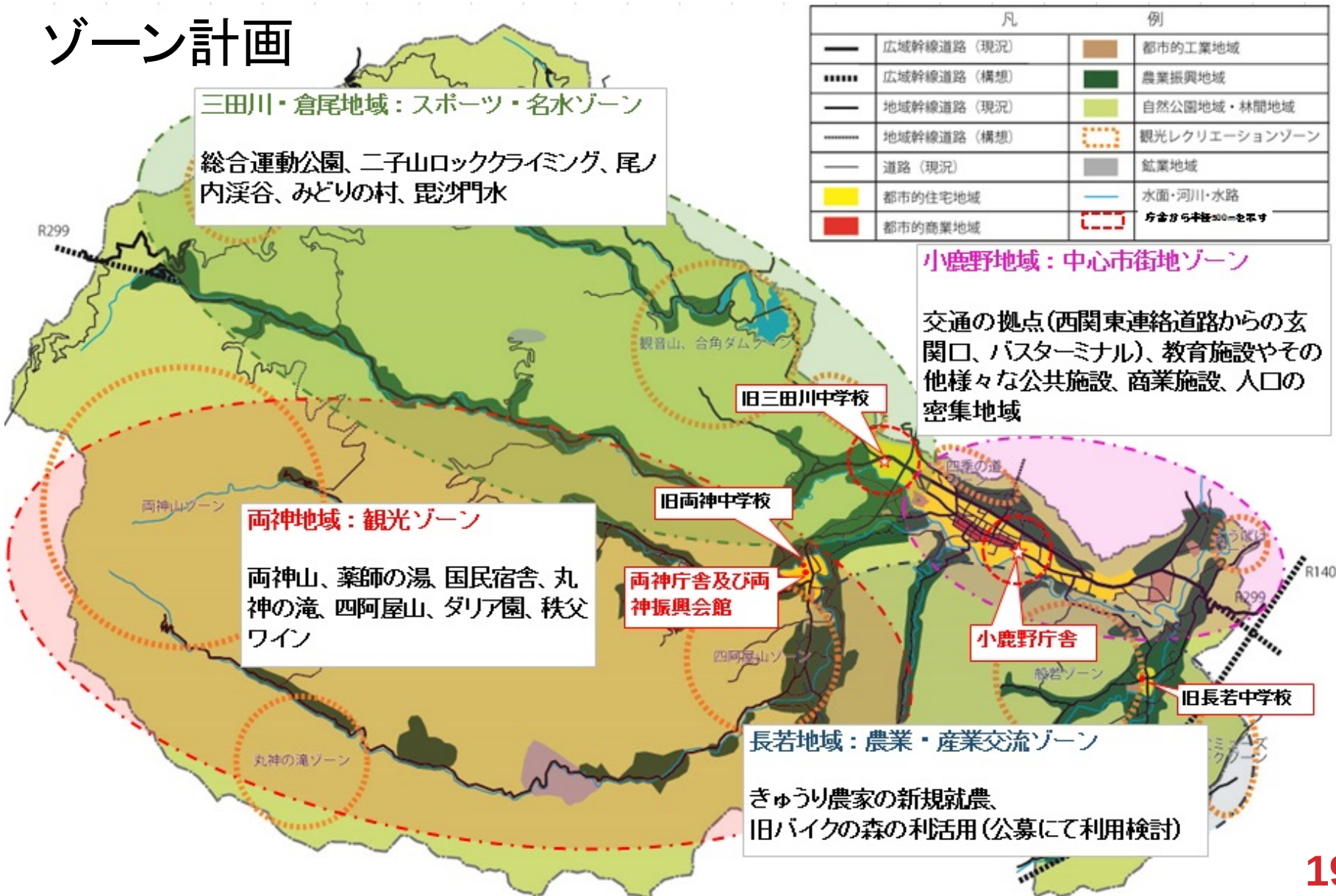
人口減少にまけない 小さくても輝き続けるまち

基本目標2

本町の自然や特性を活かした地域経済の創生

◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

ゾーン計画



◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

ゾーン計画

両神地域・・・ 観光ゾーン

両神山、薬師の湯、国民宿舎、丸神の滝、四阿屋山、ダリア園、秩父ワイン

三田川・倉尾地域・・・ スポーツ・名水ゾーン

総合運動公園、二子山ロッククライミング、尾ノ内溪谷、みどりの村、毘沙門水

長若地域・・・ 農業・産業交流ゾーン

きゅうり農家の新規就農、
旧バイクの森の利活用(公募にて利用検討)

小鹿野地域・・・ 中心市街地ゾーン

交通の拠点(西関東連絡道路からの玄関口、バスターミナル)、教育施設やその他様々な公共施設、商業施設、人口の密集地域

※空き施設の利活用も積極的に進める

◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

位置 既存施設や街並みとの関係性



現小鹿野庁舎位置は、既存施設や既存の街並みとの関係性が高い



旧三田川中学校位置は、既存施設や既存の街並みとの関係性が低く、スポーツゾーンにある。

◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

西側を望む



旧三田川中屋上から

東側を望む



北側を望む



南側を望む



◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

中心市街地を望む 小鹿野庁舎屋上から



北側を望む



西側を望む



東側を望む



◆比較検討(1)(まちづくりの視点から)

●旧三田川中の位置

①武道場や野球場など多くのスポーツ施設が集中するスポーツゾーンにある。

●現在の小鹿野庁舎の位置

①中心市街地にあり、バス交通の拠点であり、金融機関や学校施設、町立病院や警察署など、町の主要施設や街並みとの関係性が高い。

②現在の庁舎は昭和41年から52年間の長きに亘り、町のコアとしての役割を担っており、今後もまちづくりの拠点として必要である。

「現在地」が望ましい

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

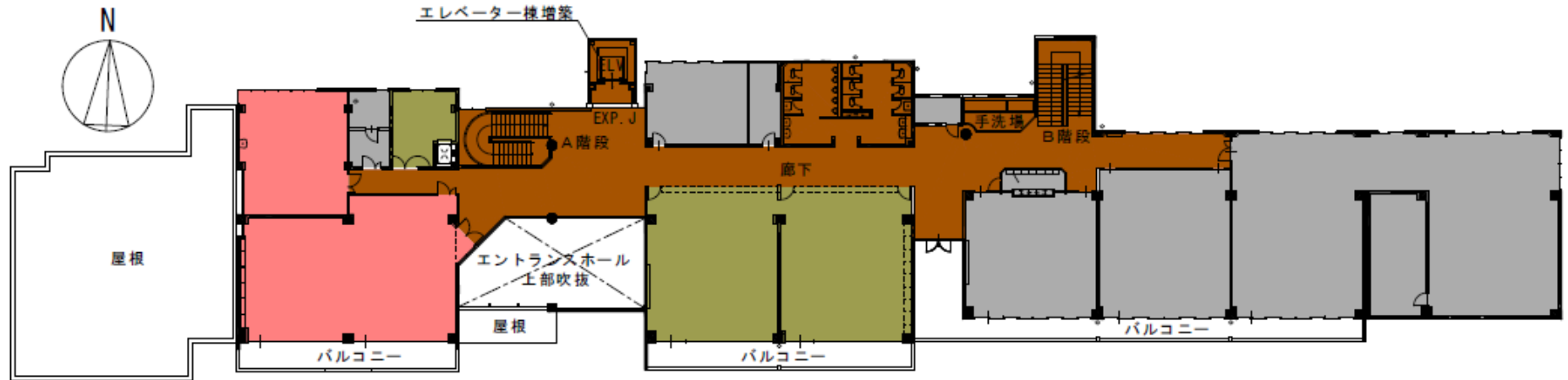
旧三田川中リフォーム案

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

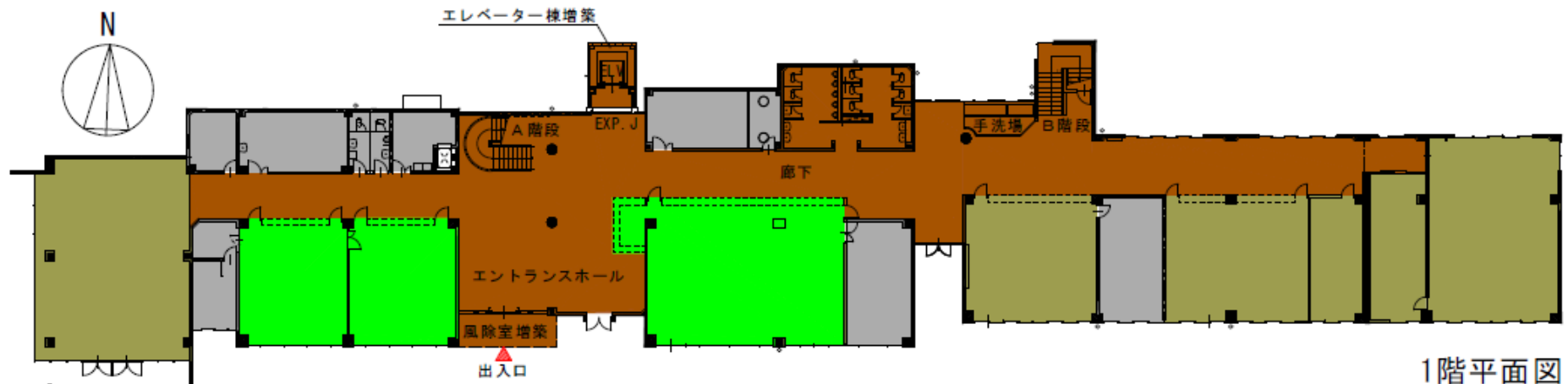


◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

旧三田川中学校



2階平面図



1階平面図

凡例 共用部 事務室 窓口業務 付属室 議会 既存壁

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

旧三田川中外観



1階内部



昇降口階段



教室



◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

耐震性能を落とさず**構造体**の**改変**はしない前提で、**学校**のレイアウトから**庁舎**レイアウトに改修する。

利点

- ・初期のインシャルコストを、新築より抑えることができる。

検討事項

- ・教室の**固定壁**があるため**改修に制約**があり、使い勝手のよい動線計画やレイアウトに難がある。 窓口業務をまとめたり、議会やイベントを行う広い空間を造ることが難しい。

廊下



トイレ



◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

概算事業費(旧三田川中をリフォーム:A案)

項 目	概 要	金額(千円)
庁舎本体工事費	建築・電気・機械・EV・OAフロア・木質化・断熱窓改修・LED化・合併浄化槽・太陽光発電・自家発電設備等	642, 000
付帯工事費	外構工事、公用車車庫、小鹿野庁舎取壊、システム移設、光ファイバーケーブル新設約3km等	185, 000
設計調査費等	基本設計・実施設計・監理費 地質調査・用地調査等	48, 000
小 計		875, 000

(国の積算基準や他自治体の事例を参考に積算)

周辺道路整備費用		120, 000
合 計		995, 000

◆比較検討(2)(概算事業費を中心に比較)

概算事業費(旧三田川中をリフォーム:B案)

項 目	概 要	金額(千円)
庁舎本体工事費	建築・電気・機械・EV・OAフロア・木質化・ 断熱窓改修 ・LED化・合併浄化槽・ 太陽光発電 自家発電設備等	497, 000
付帯工事費	外構工事、公用車車庫、小鹿野庁舎取壊、システム移設、光ファイバーケーブル新設約3km等	185, 000
設計調査費等	基本設計・実施設計・監理費 地質調査・用地調査等	46, 000
小 計		728, 000
周辺道路整備費用		120, 000
合 計		848, 000

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

概算事業費(旧三田川中をリフォーム:C案)

項 目	概 要	金額(千円)
庁舎本体工事費	建築・電気・機械・EV・ GAフロア・本質 化・断熱窓改修・LED化・合併浄化槽・太 陽光発電 自家発電設備等	447, 000
付帯工事費用	舗装・排水、公用車車庫、小鹿野庁舎取 壊費用、サーバー類、電話移設、光ファ イバーケーブル新設約3km等	185, 000
設計調査費等	基本設計・実施設計・監理費 地質調査・用地調査等	44, 000
小 計		676, 000
周辺道路整備費用		120, 000
合 計		796, 000

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

現在地に建替え案 (木造)

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

建替えの場合の条件として、庁舎の規模は

現在の役場庁舎面積
約2,814m²

(小鹿野庁舎、第2庁舎、両神
庁舎1階事務エリアの合計)

総務省の地方債起債対象
事業費算定基準による算
定面積(職員数89人)
2,590m²

国土交通省新営庁舎基
準による算定面積
2,633m²



既存第2庁舎の活用

最も小さい算定面積の2,590m²から第2庁舎の
約400m²を引いた2,190m²を上限とする。

新庁舎の面積は、**2,190m²を上限**とし、さらなるコンパ
クト化を目指します。

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

●配置案A

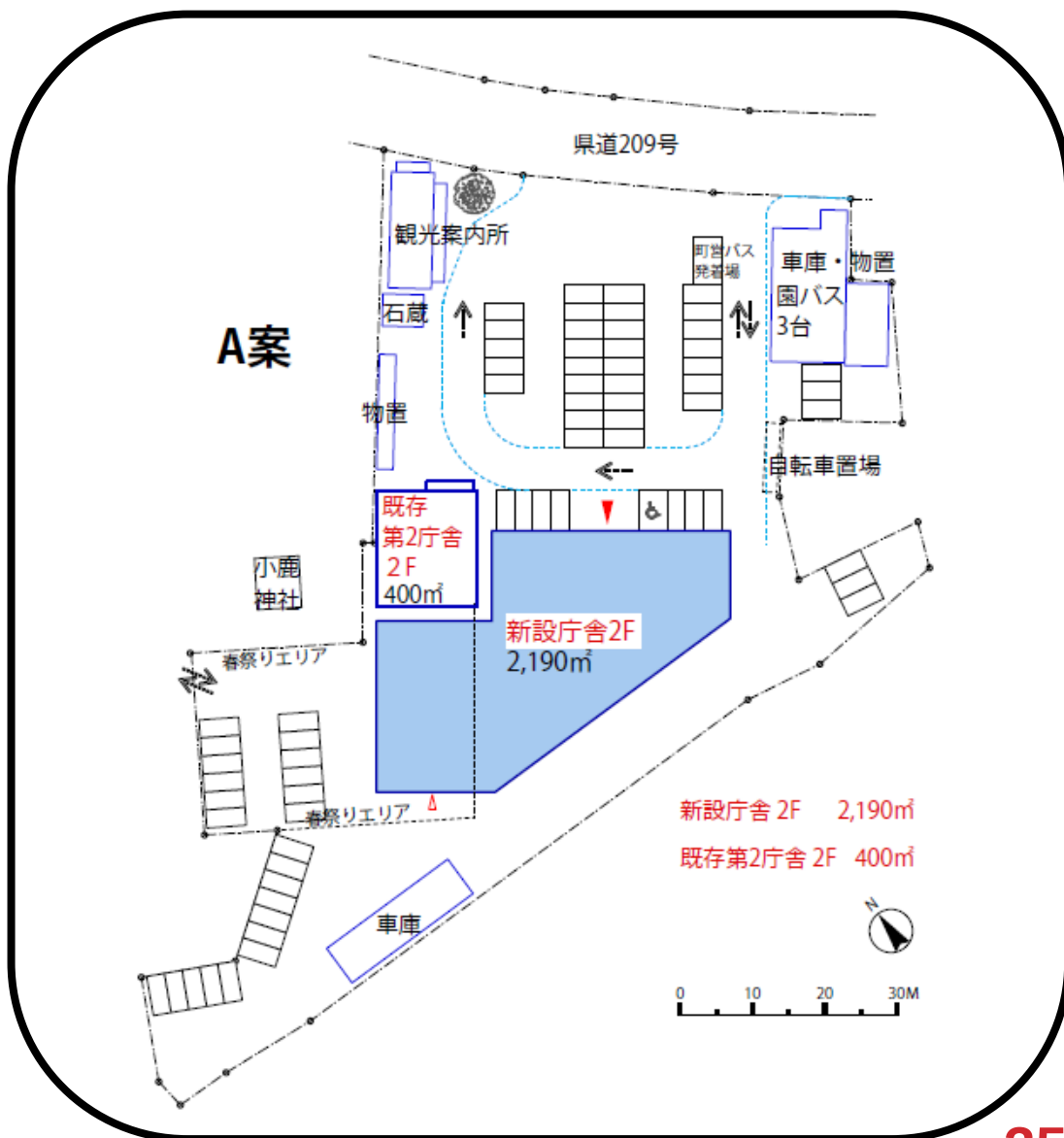
既存庁舎を使用しながら、**後面敷地に2階建庁舎を建設**

利点

- ・引越しが1回

検討事項

- ・庁舎業務を行いながらの建設のため、安全対策が必要
- ・後面敷地は、埋め立て地であるため、地盤が弱く杭工事等の基礎補強の可能性が大
- ・庁舎のエントランスが県道から離れ(約50m)視認性が落ちる。また後面駐車場が前面から離れ、使い勝手が悪い。
- ・春祭り開催のための現況スペースが確保できない。



◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

●配置案B

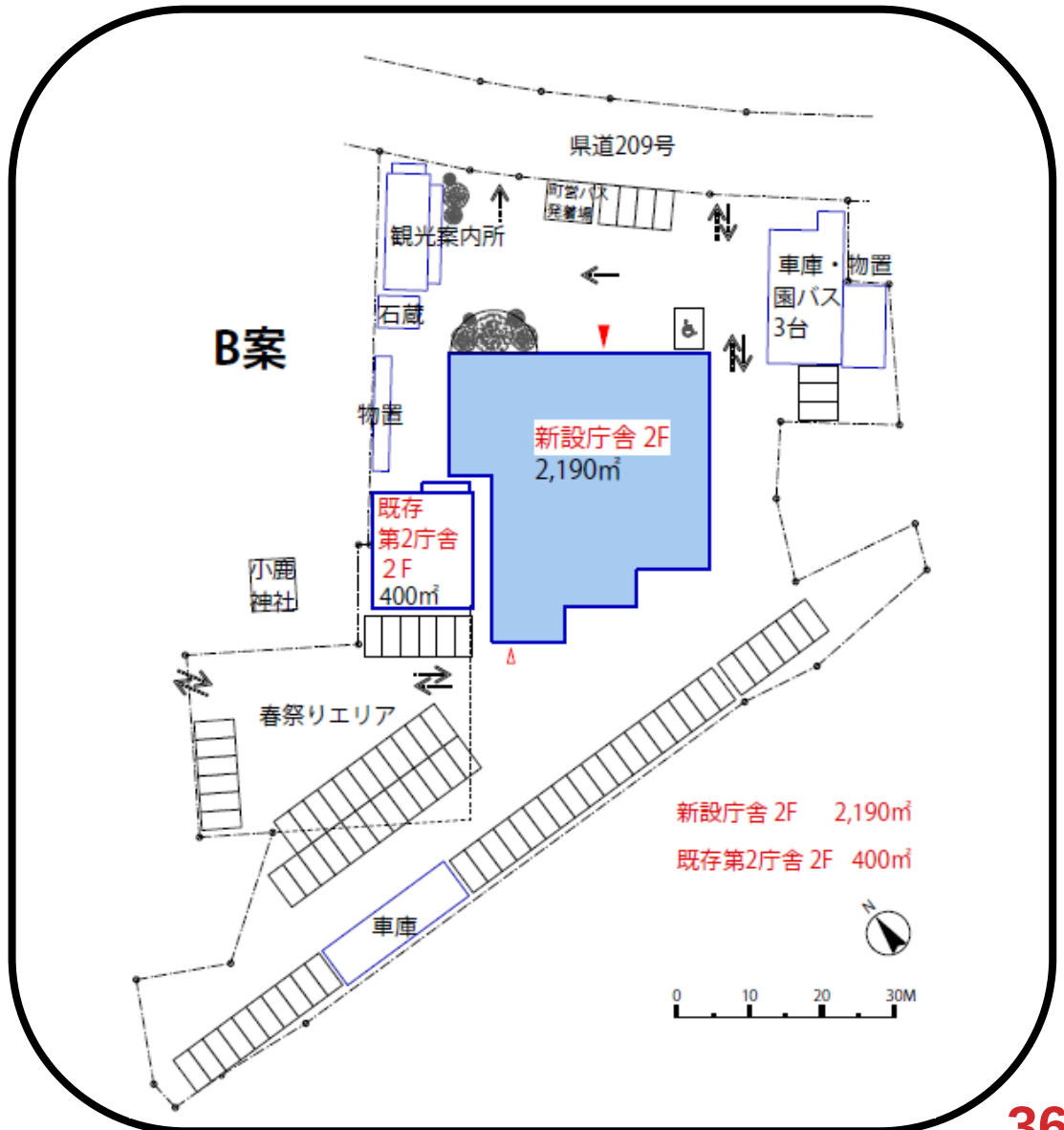
両神庁舎に仮移転し、**現況敷地に2階建て庁舎を建設**

利点

- ・設計の自由度が高く、使い勝手の良い庁舎の建設が可能
- ・安定地盤の上に、建設可能
- ・工事と庁舎業務が別となるため、町民の安全が確保され、工事が進めやすい。
- ・春祭り開催のためのスペースが十分確保できる。

検討事項

- ・引越しが2回必要であり、スケジュール及び予算調整が必要。



◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

●配置案C

両神庁舎に仮移転し、**現況敷地に平屋建て庁舎**を建設

利点

- ・平屋のため階段及びEV不要、バリアフリー化が進めやすい。
- ・工事と庁舎業務が別となるため、町民の安全が確保され、工事が進めやすい。
- ・春祭り開催のためのスペースが確保できる。

検討事項

- ・引越しが2回必要であり、スケジュール及び予算調整が必要。
- ・建物により、敷地が分断され、前面敷地が狭く、後面敷地駐車場のアプローチが難



◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

●配置案D

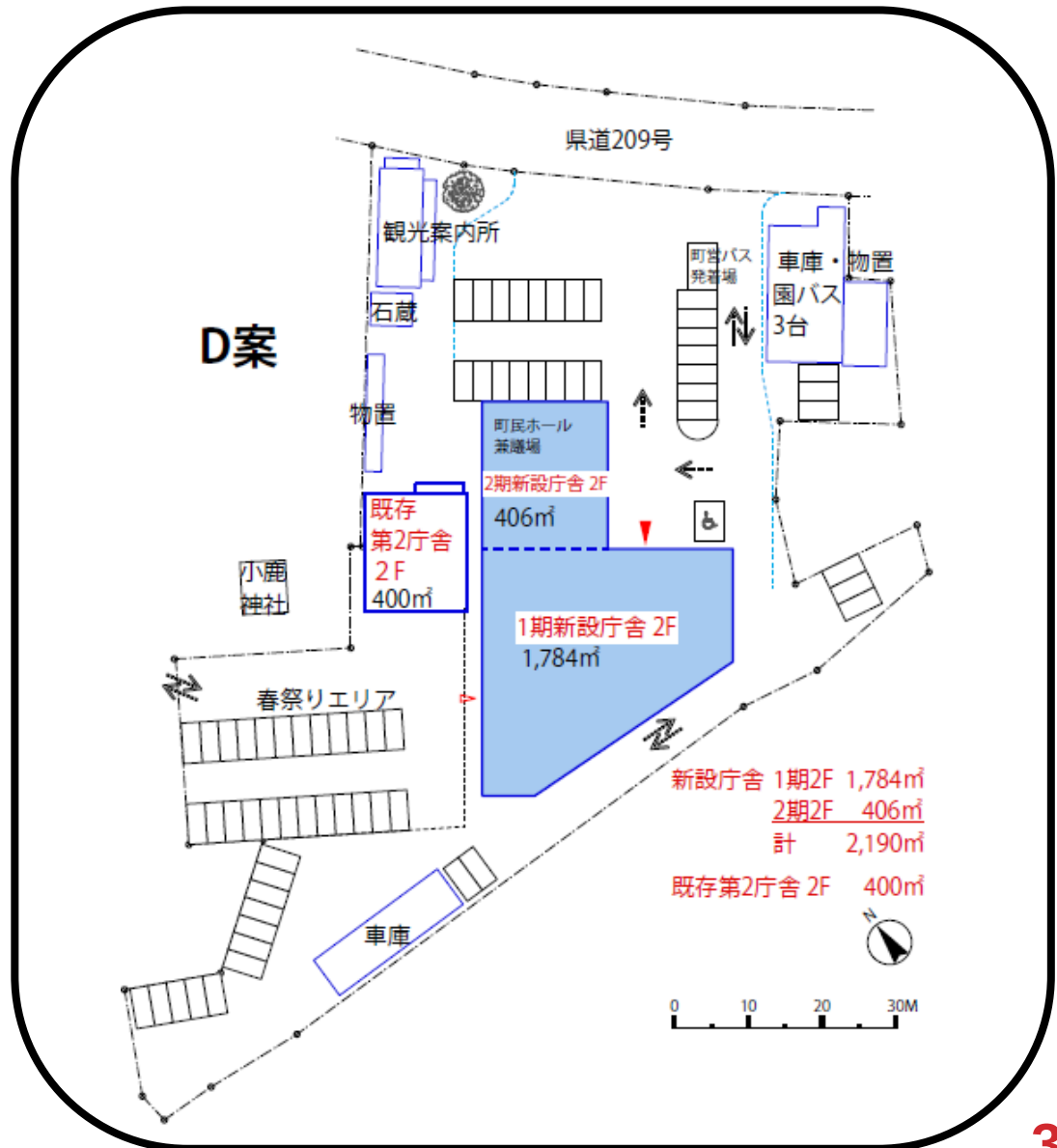
既存庁舎を使用しながら、後面敷地に**1期**として庁舎事務機能(2階建)、**2期**として議会機能(2階建)を中心に建設

利点

- ・事務機能の主な引越しが1回
- ・春祭り開催のための現況スペースが確保できる。

検討事項

- ・建設工事が2期となり、工期が延びる。
- ・庁舎業務を行いながらの建設のため、安全対策が必要
- ・後面敷地は、埋め立て地であるため、地盤が弱く杭工事等の基礎補強の可能性が大

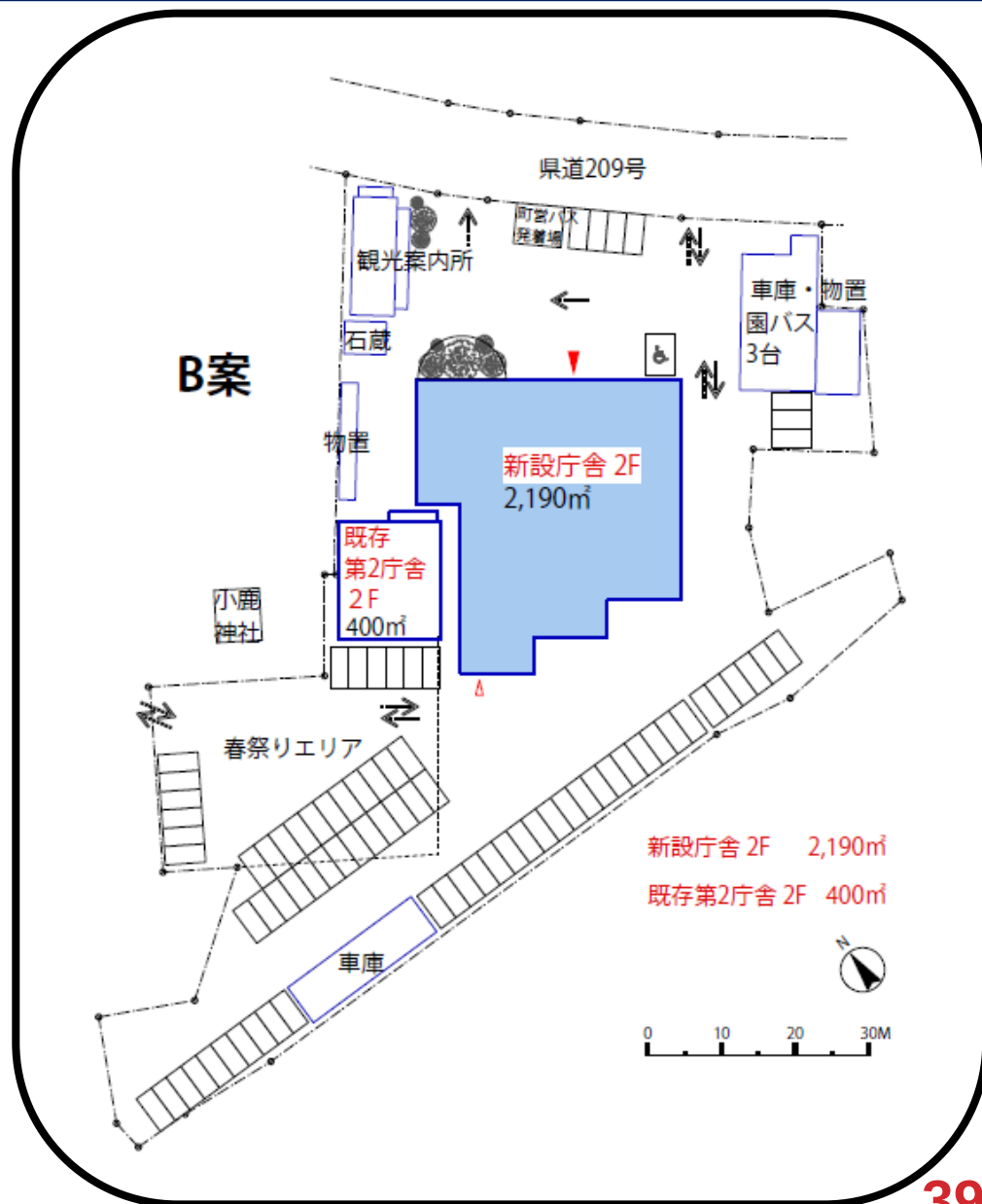


◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

まとめ

- ・設計の自由度が高く、**使い勝手の良い庁舎**の建設が可能
- ・**安定地盤**の上に、建設可能
- ・工事と庁舎業務が別敷地となるため、**町民の安全**の確保ができ、工事が進めやすい。
- ・既存施設の有効活用ができる。
- ・春祭り開催のためのスペースが十分確保できる。
- ・**既存のまちづくりと調和した**庁舎の建設ができる。

等の点から**配置案Bを基本**に概算事業費を算出した。



◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

概算事業費(現在地に建替え:木造)

項 目	概 要	金額(千円)
庁舎本体工事費	建築・電気・機械・EV・浄化槽・自家発電設備・太陽光発電等	889, 000
付帯工事費	外構工事、小鹿野庁舎取壊、システム移設等	109, 000
設計調査費等	基本設計・実施設計・監理費 地質調査・用地調査等	91, 000
合 計		1, 089, 000

◆比較検討(2) (概算事業費を中心に比較)

50年のライフサイクルコストで検討

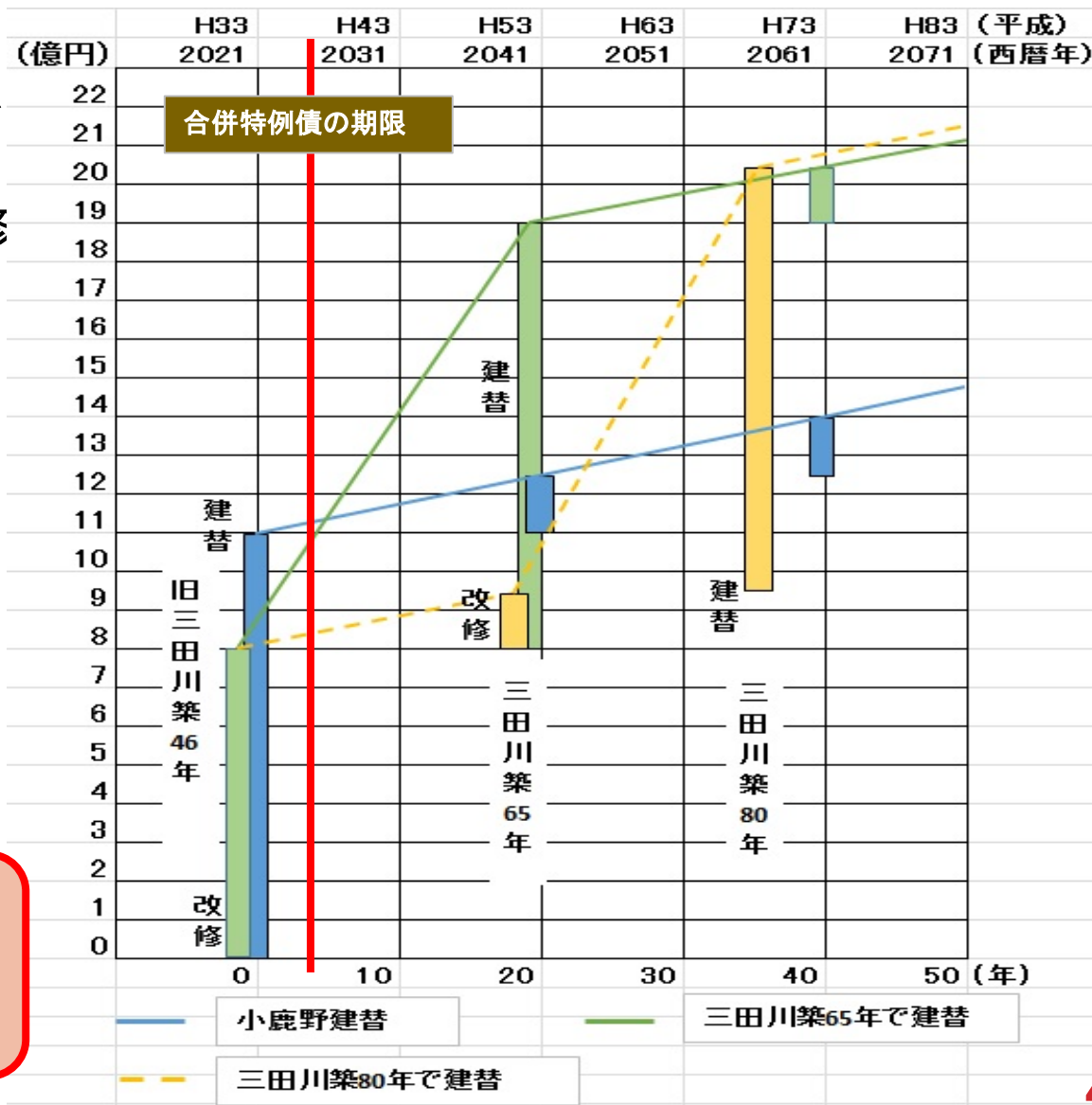
・旧三田川中リフォーム C案

H33(築46年)で大規模改修し、
H52(築65年)、
H67(築80年)で
改修又は建替えを想定

・現在地に建替え B案

H53(築20年)、
H73(築40年)で
改修を想定

「現在地に建替え案」
が優位



◆比較検討(3)(基本方針の視点から)

基本方針の視点で比較

〈基本方針1〉 安心安全な町民のための庁舎

〈基本方針2〉 町民サービスの向上を目指した庁舎

〈基本方針3〉 ふるさとの個性を活かした
小鹿野町の活性化に繋がる庁舎

〈基本方針4〉 まちづくりと環境に調和した庁舎

〈基本方針5〉 ICTとフレキシビリティ対応を考慮
した経済的で合理的な庁舎

◆比較検討(3)(基本方針の視点から)

〈視点1〉 安心安全な町民のための庁舎

現在地に建替え

- ①現在、社会的に求められている耐震機能や、防災機能整備が可能である。
- ②中心市街地にあるため、多くの町民が容易に避難でき、避難場所として適切である。
- ③ヘリポートになるグラウンドは隣接する。

評価 ○

旧三田川中リフォーム

- ①耐震補強済みである。
- ②中心市街地から離れているため、町民の避難に制約があるが、避難場所としては、適切である。
- ③ヘリポートになるグラウンドは敷地内にある。

評価 ○

◆比較検討(3)(基本方針の視点から)

〈視点2〉 町民サービスの向上を目指した庁舎

現在地に建替え

- ①中心市街地にあり住民の利便性は高い。
- ②現在、社会的に求められているユニバーサルデザインやバリアフリー等に対応した施設整備が可能である。
- ③動線計画やわかりやすい案内表示及び町民スペースの確保など、利用者に快適な整備が可能である。

評価 ◎

旧三田川中リフォーム

- ①中心市街地から離れ、住民の利便性は低下する。
- ②既存改修であるため、ユニバーサルデザインやバリアフリー対応が限定的となる。敷地に高低差があり、バリアフリー対応に難がある。
- ③中学校の改修であり、動線計画やわかりやすい案内表示が難しい。

評価 △

◆比較検討(3)(基本方針の視点から)

〈視点3〉 ふるさとの個性を活かした 小鹿野町の活性化に繋がる庁舎

現在地に建替え

- ①中心市街地に位置し、施設連携・相乗効果が期待でき、まちづくりの継続性が保たれる。
- ②内外部に地域産木材を積極的に活用することにより、地元経済の活性化を計りながら、町民に親しまれる庁舎が建設できる。
- ③小鹿野の自然と文化をアピールする積極的な空間づくりが可能である。

評価 ○

旧三田川中リフォーム

- ①中心市街地から離れているため、街づくりの継続性に難がある。
- ②限定的ではあるが、内装材として地域産木材を活用することができ、地元経済の活性化に貢献できる。
- ③構造体を残しながら、既存の間取りの中での空間づくりが必要である。

評価 △

◆比較検討(3)(基本方針の視点から)

〈視点4〉まちづくりと環境に調和した庁舎

現在地に建替え

- ①町の既存中心施設から近く、インフラとの整合性が高い。
- ②コンパクトシティの核として機能できる。交流・連携・協働によるまちづくりの拠点としての整備が可能である。

※コンパクトシティ:生活に必要な諸機能が近接した行政効率の良いまちづくり

- ③パッシブデザイン手法や効率的な設備計画により、省エネ化を積極的に図ることができる。

評価 ○

旧三田川中リフォーム

- ①町の既存中心施設から離れ、インフラとの整合性が低い。
- ②コンパクトシティの核として機能できない。両神・三田川・小鹿野・倉尾の中間点であり、まちづくりの拠点変更に繋がる。
- ③省エネ化は可能であるが、改修には大がかりな既存撤去や補修が必要であり、コストアップの要因となる。

評価 △

◆比較検討(3)(基本方針の視点から)

〈視点5〉 ICTとフレキシビリティ対応を考慮した経済的で合理的な庁舎

現在地に建替え

- ①現代ニーズに対応したICT化が可能である。
- ②間取変更や縮小を考慮した、フレキシビリティ対応が積極的に可能である。
- ③庁舎本体工事費用は、リフォームに比べて必要であるが、ランニングコストは、縮減される。
- ④ライフサイクルコストを抑え、合理性のある機能的な庁舎が建設可能である。

評価 ◎

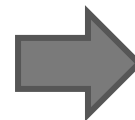
旧三田川中リフォーム

- ①情報設備対応に制約があるため、限定的なICT対応となる。
- ②教室間の構造壁があるため、間取り変更等のフレキシビリティ対応に欠ける。
- ③初期費用は、縮減できるが、周辺道路整備などの付帯工事費用が必要となる。
- ④老朽化対応や建替え検討が必要であり、ライフサイクルコストは増大する。

評価 △

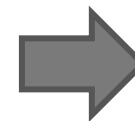
◆比較検討(まとめ)

① まちづくりの視点



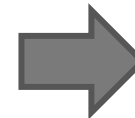
現在地に
建替え案が有利

② ライフサイクルコスト



現在地に
建替え案が有利

③ 基本方針の5つの視点



現在地に
建替え案が有利



「現在地に建替え案」がよい

◆財源

- **合併特例債** (旧両神村と旧小鹿野町が合併したことにより活用が認められている特例債。時限立法)

対象事業費の**95%**に充てられ、その**償還金の7割**を普通交付税として**国が負担**してくれる町にとって大変有利な財源



平成32年度まで⇒**平成37年度まで**(5年間の延長)



活用できる最後のチャンス

※今機会を逃すと、財源確保が困難

◆財源

全体の概算事業費 約10億8900万円想定

合併特例債対象事業費 約10億4200万円

対象外事業費
4700万円

合併特例債 95% (約9億9000万円)

普通交付税(国負担) 70%
(約6億9300万円)

町負担
30%
約2億
9700万円

町負担
5%
約
5200
万円

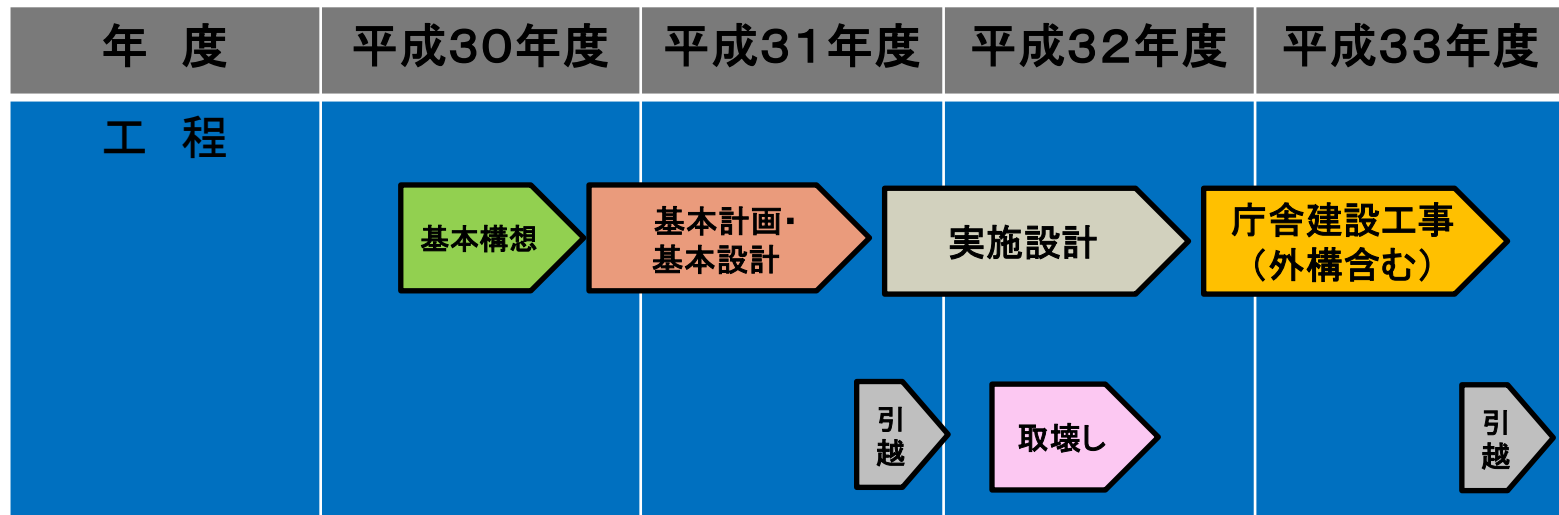
対象
外事
業費
(基本設
計・シス
テム移転
等)
約4700
万円

町負担 約3億9600万円

◆事業スケジュール

●想定スケジュール

平成30年度中に基本計画・基本設計に着手し、平成33年度に新庁舎完成を目指して事業を進めます。



◆終わりに

庁舎整備事業を今後進めるにあたり、

1 町民の皆様へ「**わかりやすく伝えること**」

2 町民の皆様と「**ともに考えること**」

を大切に、

町民の**皆様に愛される庁舎**を目指します。